

教員のための音楽

Music for school teachers

浅田まり子 (Mariko ASADA)

1. はじめに

教員採用試験に伴う音楽は、高校までの副教科としての音楽とは 180 度転換した教員のための教科となり、初めて音楽に真剣に向き合う学生にとっては苦痛でもあり、未知の世界を覗いたような気分になるようだ。まして音楽理論となると聞くだけで「難しい」と考えがちで、特に音程・音階・和音・移調になると、なぜか 1 度や 2 度の説明では理解できない部分がある。教育学科に音楽を教えるのは 6 年目となるが、最初は「音楽理論はわからなくてもよい」という先入観から、最近やっと「理解しなくては」という自己教育力が芽生えてきたので、教員採用試験をふまえた「教員のための音楽」をできるだけ解り易く解説し、「なぜ音楽理論が必要なのか」「教員としての音楽教育は何が必要なのか」を述べていく。理論的な説明に入ると「これは何のために必要なのか？」という問いが常時あり、「必要ではない」という答えを求めているようにも聞こえるが、数学の問題を解くように方程式がわかれば、難しい問題も解けていくように、音楽理論を理解することによって、より音楽が簡単に理解でき、歌い、楽器を弾き、音が聴き分けられるようになり、さらに音楽を愛する心情や感性が育つのだ。現代のようにコンビニですぐ忘れ物をしたものを買って充たされるような安易な感覚にならないでほしい。

過去の教えてきた経験からいうと、音楽理論が理解できたときには「なるほど、そういうことだったのか！」というすっきりとした達成感があるようだ。暗記ばかりして詰め込んで覚えるのではなく、身近な小学校音楽の共通教材も分析しながら、実践的そして基本的な音楽理論の解説をし、注意点などを記していくので、根気よく学んでほしい。

2. 音楽理論とは何か

Mozart が天才であると云われているが、この天才を育てた父 Leopold Mozart はもっと素晴らしい音楽家であり、音楽教育家で当時では最高の実力を持っていたといえる。この父は Wolfgang Amadeus Mozart がちょうど生まれた 1756 年に「バイオリン奏法」¹⁾ という本を初版した。その後は第 4 版までして、当時は売れ行きが大変良かったことも記されている。それから 1974 年になってやっと日本で塚原哲夫によって訳書が出版されている。この本も日本でも大変人気がある。従ってこの本は現代でも基本的な音楽理論を学ぶ貴重な本とされている。

父 L. Mozart は子 A. Mozart が幼い時から偉大な音楽家たちから A. Mozart が音楽の手ほどきを受けるために、生涯の 3 分の 1 は旅をした。教えられた音楽の仕組みで音を組み合わせることによって、短い 35 歳の生涯に名曲を 700 曲以上も作曲することができた。

そう云うと「そのような天才や専門家の話をされてもそれとは別な世界だ」と思われそうだが、初心者が基礎を無視しては正しい音楽はできないことが L. Mozart の「バイオリン奏法」という本からも窺える。万民のために L.Mozart はこの書を執筆したのである。音楽理論は基本的な楽譜の仕組み・そして演奏法を学ぶことができる。要するに英語の ABC・・・というアルファベットを覚えるのと同じことで、音楽語の解読を学ぶことと同じだと考えてもよい。西洋音楽には長い歴史があり、音楽家が工夫をしながら音楽を残し正しく伝えるために様々な理論を基に楽譜ができ、それをどのように演奏するかという解説が音楽理論である。その基本を楽譜と切り離しては決して音楽を理解していることにはならないことになる。音楽を学ぶためには音楽理論の基本を理解してからピアノやヴァイオリンを習い始めることからが本当の習得方法なのだが、日本では音楽理論を別々に考えている傾向が強いのでなおさら専門的な知識とかけ離れていってしまう場合が多い。このように分離しないように音楽理論を学び活用しながら歌や楽器を演奏し、教えることを心掛けてほしい。

3. 楽譜の仕組み

1) ピアノの鍵盤

まずピアノの鍵盤を書いてみよう。ピアノの鍵盤を書くことになると、記憶のあやふやな鍵盤を書いていることがある。このピアノの鍵盤を記憶し、正しく書くことやすぐ頭に浮かぶようにしておくといよい。音程など考えるときにとっても役に立ち時間もかからなくなる。また現在のピアノの鍵盤は全部で 88 鍵あり、白鍵は 52 鍵、黒鍵は 36 鍵ある。白鍵は下の方で黒鍵は上の方であるが、Mozart の時代のように古い時代には黒鍵と白鍵が逆であった。映画「アマデウス」でその鍵盤を観ることができる。

2) 音符と休符

音の長さを記すものとして全音符・2分音符・4分音符・8分音符・16分音符とそれに付点が付いている付点〇〇音符ある。また、休符としても全休符・2分休符・4分休符・8分休符・16分休符とこれも付点〇〇休符がある。また全休符は洗濯物を吊るすように下を向いていて、2分休符は羊羹が載っているように5線の間にある。このようにどちらであったか混乱することが多いので注意して特徴を掴み、はっきり覚えておくといよい。

3) 拍子

拍子記号：例えば4分の4はCとも記し、4分音符を1拍と数えて（分母）、1小節内に4拍ある拍子（分子）、また8分の6は8分音符を1拍と数えて、1小節内に6拍ある拍子のことである。この拍子で間違いやすいのは2分の2(♩)と4分の4、それから4分の3と8分の6の区別である。これは拍の取り方が違うので注意する必要がある。

拍子の種類：単純拍子は《2拍子》2分の2・4分の2・8分の2

《3拍子》2分の3・4分の3・8分の3

《4拍子》2分の4拍子・4分の4拍子・8分の4拍子

複合拍子は《2拍子》8分の6拍子

《3拍子》8分の9拍子

《4拍子》8分の12拍子

混合拍子は8分の5拍子・8分の7拍子

弱起の曲：小節の1拍めから始まる曲は強起で、それ以外の拍から始まる曲を弱起の曲という。

4) 音部記号

音域の高低を記譜するのに3種類の記号を用いる。

ト音記号・・・ト（音名）の位置を指示し、高音部記号・ヴァイオリン記号とも呼ばれている。
ハ音記号・・・ハ（音名）の位置を指示し、ソプラノ・アルト・テナー記号などとも呼ばれ、
アルト記号はビオラ記号ともいわれ、現在もビオラの楽譜はこの記号で書かれている。

ヘ音記号・・・ヘ（音名）の位置を指示し、低音部記号・バス記号とも呼ばれている。

5) 音名と階名

日本では音名はハ・ニ・ホ・ヘ・ト・イ・ロであり、階名はド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ドである。この違いもはっきりと覚えておいてほしい。この音名と階名は混乱していることが多い。英米C・D・E・F・G・A・B、コードネームを使用するときなどに必要である。その他では独語でC・D・E・F・G・A・H（ツェー・デー・エー・エフ・ゲー・アー・ハー）ドイツ音名は専門的に用いられることが多い。ピアノを専門的に習っている小学生でもドイツ音名を使用している場合がある。階名はド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ドこれも混同しないようにすること。またハニホヘトイロ（白鍵）は幹音といい、#♭などが付けられて変化した音は派生音である。

6) 変化記号

#・・・シャープ（嬰記号）半音高くする。

♭・・・フラット（変記号）半音低くする。

♮・・・ナチュラル（本位記号）

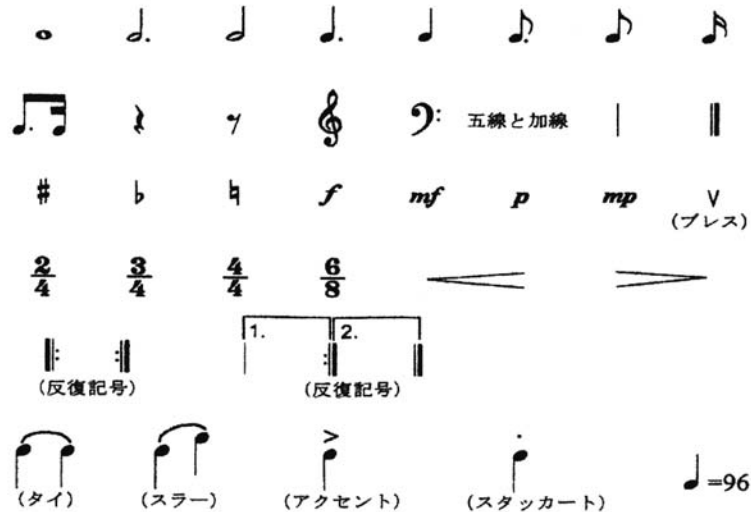
ダブルシャープ（#が2個）がつくと（重嬰記号）となり半音+半音高くなり、ダブルフラットが（フラットが2個）つくと半音+半音低くなる重変記号となる。

7) 音符・休符・記号・音楽用語

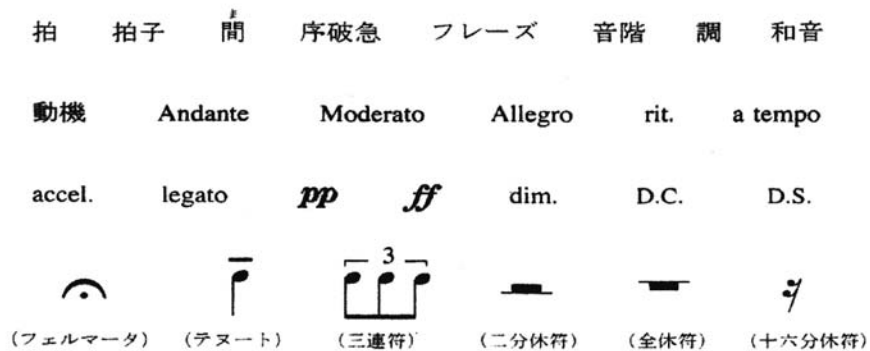
次に記すのは小学校学習指導要領解説（音楽編）〈A図〉・中学校学習指導要領解説（音楽編）

〈B図〉に掲載されている音符・休符・記号・音楽用語である。この音符、休符の長さや記号・音楽用語の読み方と意味を調べておくことは必要である。²⁾

A図



B図

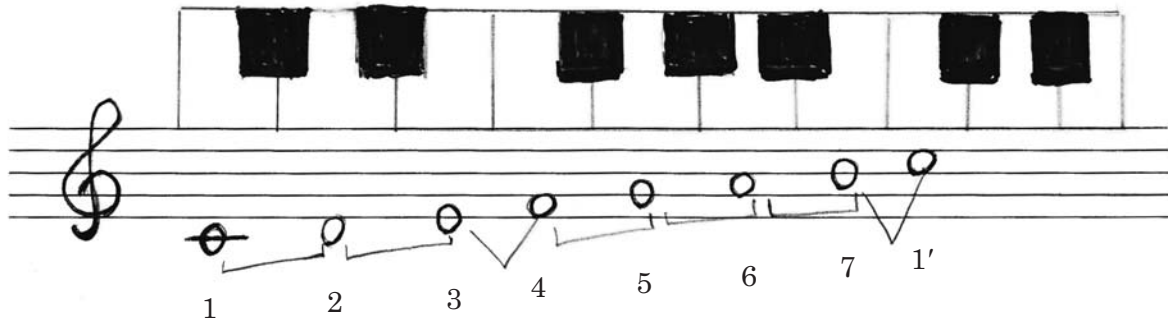


8) 音程

音程はどのようなことに必要なのかという疑問が一番強いセクションである。これが理解できると次に続く音階、和音の説明が理解できるので、音程は難しいと考えずに仕組みをしっかり見て慣れていくと特別難しいことではない。

ピアノの鍵盤はド (1点ハ) から次のド (2点ハ) までは 12 種類の半音できている。それ

を 12 平均律といい、1 オクターブを 12 の平等な音程に分割してそれを半音と定めることを基礎とする。それに対して純正音程をもって音階を構成する方法が純正律である。³⁾ ピアノは 12 平均律で調律されていることが多いが、声楽やヴァイオリンなどは微妙な音程で純正律の響きを出すことが可能である。浜松の楽器博物館で、1 オクターブが 36 個に分かれている鍵盤を見たことがある。12 平均律では《♯ド》と《♭レ》の音は同じ音、即ち〈異名同音〉というが、純正律では《♯ド》と《♭レ》は微妙に異なった音を出すことが可能である。そして美しい響きを創り出すことができる。



上記の図を見てみよう。この図が一番解り易いという学生からの意見であったので記した。1 オクターブを見てみると黒鍵のないところが 2 か所ある。そこは〈ミ・ファ〉(音階番号 3・4) と〈シ・ド〉(7・1') であり、半音であり、鍵盤の数は 2 鍵。次に〈ド・レ〉(1・2) を見てみると黒鍵があるので鍵盤は 3 鍵ある。これを比較してみると事実上〈ド・レ〉の方が音の幅が広いということがわかる。従って音程というのは音と音との隔たりのことである。

重減 ← 減 ← 完 全 → 増 → 重増

1・4・5・8 度

重減 ← 減 ← 短 → 長 → 増 → 重増

2・3・6・7 度

← 音程が狭くなる 音程が広がる →

(-)

(+)

このように完全 1 度 (ド～ド)・完全 4 度 (ド～ファ)・完全 5 度 (ド～ソ) 完全 8 度 (ド～ド) は同じ完全という名称が付き、完全 1 度は〈ド～ド〉〈レ～レ〉・・でどちらかに♯や♭がついても音の幅が広がるので増一度となる。減 1 度はあり得ない。4 度〈ド～ファ〉は全音 2 と半音 1 の組み合わせがほとんどであるが〈ファ～シ〉だけは全音 3 でできているため、完全 4 度より、半音 1 多いので増 4 度となる。それとは反対に 5 度は〈ド～ソ〉そして〈シ～ファ〉を比較してみると〈ド～ソ〉は全音 3、半音 1 で完全 5 度、〈シ～ファ〉は全音 2、半音 2 で完全 5 度の仕組みより半音 1 少ないので減 5 度となる。ここでは増 4 度と減 5 度の音程は覚えておいた方がよい。あと、8 度 (オクターブ) であるが、〈ド～ド (高)〉〈レ～レ (高)〉である

と完全 8 度であるがそれに#やbによって音程の幅が違ってくるので、増 8 度、減 8 度ができる。それから、短と長という名称であるのが 2・3・6・7 度となる。短と長の見分け方の例は〈ミ〜ファ〉〈ソ〜ラ〉の鍵盤の図を見て比較してみると〈ミ〜ファ〉のところは半音が 1 つである。〈ソ〜ラ〉のところは半音が 2 つあり全音（半音+半音）であって〈ソ〜ラ〉の方が音の幅が広い。従って〈ミ〜ファ〉は短 2 度、〈ソ〜ラ〉長 2 度ということになる。同じように〈ミ〜ソ〉と〈ソ〜シ〉を比べてみると〈ミ〜ソ〉は半音 1 と全音 1（半音 3 と考えてもよい）であり、〈ソ〜シ〉は全音 2（半音 4）である。従って〈ミ〜ソ〉は短 3 度であり、〈ソ〜シ〉は長 3 度ということになる。短 3 度は平行調というところにも必要なので短 3 度はしっかり覚えておいてほしい。次に 6・7 度の短と長の見分け方であるが、6 度は〈ミ〜ド〉と〈ド〜ラ〉を比較してみるとよい。〈ミ〜ド〉は半音 2 と全音 3（半音 9）であり、〈ド〜ラ〉は半音 1 と全音 4（半音 10）となる。従って〈ミ〜ド〉は短 6 度、〈ド〜ラ〉は長 6 度ということになる。この場合 7 度についても同じだが、2・3 度と違い必ず、半音が 1 あり、そして 2 半音がある場合には短 7 度となる。

音程の問題など#やbがついているとそれだけでパニックを起こし、解らないと判断しやすいが、まず#やbをとって考えてから、改めて半音広がるのか狭くなるのかを考えることによって簡単に答えが出る。⁴⁾

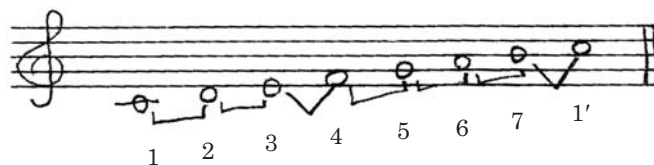
9) 音階

中世期、ローマ教会では古代ギリシャの旋法（音階）をもとにして種々の旋法を定め、当時発達した教会音楽に用いた。これを教会旋法という。中世初期に用いられた旋法は、ドリア、フリギア、リディア、ミクソリディアで各正格と変格が加えられ計 8 種であったが、後 16 世紀に至ってエオリア、イオニア各正格と変格が加えられ、計 12 種類になったとされている。近世になってイオニアが長音階、エオリアが短音階へと発展した。⁵⁾

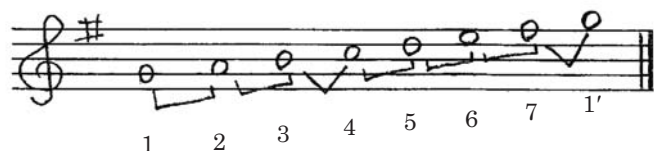
まず、長音階から考えてみると、長音階の仕組みは次のとおりである。

長音階

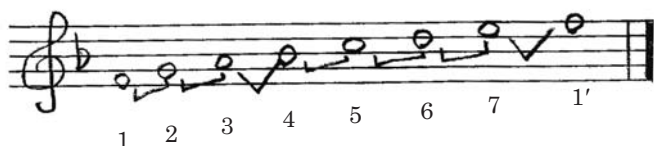
ハ長調の音階



ト長調の音階



ヘ長調の音階



ここで学生からいつも質問があるのは、なぜト長調に#がついているのか、なぜヘ長調にはbがついているのかという疑問である。よくハ長調の音階の仕組みと見比べてみよう。

ハ長調の音階は長2度・長2度・短2度・長2度・長2度・長2度・短2度という音の組み合わせである。ト長調の場合もし#がなかったら、どのような音の組み合わせになっているかという、長2度・長2度・短2度・長2度・長2度・短2度・長2度となる。また、ヘ長調ではbをとると長2度・長2度・長2度・短2度・長2度・長2度・短2度という組み合わせになってしまう。要するに長音階では番号を見てみると、〈3・4〉〈7・1'〉が半音なのがわかる。長音階は同じ仕組みでなければならない。従って#やbで長2度・短2度の調整を図る。また補足しておく、#やbを5線に正しくつけることも練習してほしい。#はファドソレラミシという順である。bはというと、#の反対を書けばよく、シミラレソドファという順である。それぞれド（主音）となる1番目の音から長2度・長2度・短2度・長2度・長2度・長2度・短2度という音の組み合わせになるように、#やbで半音下げたり半音あげたりする。次に短音階の説明に入る。短音階には3種類の音階がある。

短音階（イ短調）

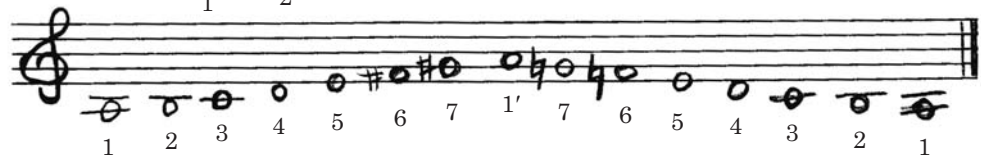
自然的短音階



和声的短音階



旋律的短音階



このように自然的短音階はエオリア旋法そのものだが、それに和声的短音階となると、7番目の音が半音上がることになる。旋律的短音階では音階の上行6・7が半音上がり、下行が6・7の半音が元に戻る。旋律的短音階では上行と下行では違う音階になる。名称と形を覚えておくとよい。

また長調と短調ではどう違うのかというような質問もある。次の「かたつむり」の長調の楽譜と、短調の楽譜を引き比べてみよう。（譜例：かたつむり）

かたつむり

文部省唱歌



弾いてみてどのように感じただろうか。授業中で弾いて聴かせたら「その違いが解る！」という声と、「どこが違うかわからない」という声が少々あったが、その音色をよく聴いてほしい。音色の違いをよく聴けるようになると表現や音楽づくりが上手くいくようになる。長調の方は「明るい・楽しい」短調の方は「暗い・悲しい」などが一般的であるが、長調はハ長調で短調はハ短調で弾いている。つまり、どこが違うのかということ云えば、ハ長調とハ短調は同主調といって、同じ主音（ハ）の音であるが、ハ短調の方は♭が3つ、ついており、この楽譜ではミ（ホ）の音には♭をつけて弾く。それが♭ミ（変ホ）となり、ハ長調の曲と音色が違うところである。♭が付けば、（変）がつき、♯が付けば（嬰）が付く。

10) 移調

ある曲を異なる調に移していくことを移調という。人の声はそれぞれの特徴があり、一番合った自分の自然な音域で歌うことが望ましいので、移調して楽譜に書いて歌う。例えばハ長調を長2度上げて、二長調にするには次のような方法で行うと解り易い。

The image displays two examples of scale transformations. Example A shows a C major scale in 4/4 time with a scale diagram 'a' below it. Example B shows a D major scale in 4/4 time with a scale diagram 'b' below it. The scale diagrams use numbers 1-7 and 1' to represent the notes of the scale.

上記の A はハ長調の楽譜である。その音符に a のスケールナンバー（音階番号）を振ってみると、A のようになる。次に二長調に移調するには b のようなスケールナンバーから考えると、B のような楽譜になる。ハ長調・ト長調でもスケールナンバーを書いて移調楽譜を書いてみよう。この方法も一つの考え方として移調するときに役立ててほしい。何よりも楽譜を書くことに慣れることが必要である。

11) 移動ド唱法と固定ド唱法

移動ド唱法・・・その調の主音をドとして読んでいく唱法である。

固定ド唱法・・・どの調でもハ長調のハをドとして読んでいく唱法である。専門的にはこの固定ド唱法で読んでいることの方が多いが、絶対音感を持たない人が歌う場合には音程をとることが難しいので、音程感覚に自信がない人は移動ド唱法で歌う方が音程をしっかりとれるという利点がある。⁶⁾（譜例：うみ）

A: ミ レ ド ラ レ ド ラ ソ ソ ド ド レ

B: シ ラ ソ ミ ラ ソ ミ レ レ ソ ソ ラ

上記の楽譜はAの階名が移動ド唱法である。Bは固定ド唱法である。追記すると、ト音記号を書いた後に、ト長調である#を5線上に正しく書き、それから4分の3を書いてから音符を書くことになっている。記譜をしっかり覚えて簡単な楽譜はすぐ読み、頭にその音や、リズムが浮かぶように訓練することも必要である。

12) 和音

音の高さの異なる2音以上が同時に響くとき、発生する音を和音という。

A 図

B 図 I IV V(7)

C 図 I IV V(7)

A 図はその和音の構成音の名称である。一番基となる音は根音、次の3度上は第3音、また3度上は第5音、そして3度上は第7音となる。B 図はハ長調の長3和音で長3度（ド～ミ）、短3度（ミ～ソ）の組み合わせで完全5度（ド～ソ）の構成である。そしてIの和音、IVの和音、Vの和音そしてV(7)の和音である。C 図はイ短調の和音であり短3和音でその構成は短3度（ラ～ド）、長3度（ド～ミ）で（ラ～ド）までは完全5度である。この和音の場合は和声的短音階が用いられる。長3和音と短3和音の響きを弾いて聴いてみよう。長3和音と短3和音の響きを聴き分けておくと長調・短調の聴きわけもできるようになる。童謡などに伴奏をつけるとしたら、メロディーを和音分析して、このI・IV・Vの和音を用いれば、ほとんど簡単な伴奏が付けられる。「かえるのうた」を例に挙げると全部Iの和音で伴奏ができる。

また、ドレミファミレド～の中にはIの和音内のドミソがたくさんあるので、Iの和音が成り立つ。そしてその中のレ・ファ・レは非和声音（和音に属さない音）なので、これは細かく分析して考えなくてもよい。また「こいぬのマーチ」ではミドミドミソソ（I）ファレレ（V）ミドド（I）というように伴奏が成り立つ。

下記にCのコードネームの種類を記してみたが、それぞれの音程で構成されている。

C Cm C^{aug} C^{dim} C⁷ Cm⁷ CM⁷ CmM⁷ C⁶ Cm⁶

すぐにコードを使用することは難しいと思うので、下記の楽譜のように、まずその小節のコードの根音を左手の伴奏部分で弾いてみるとよい。右手でメロディーを弾き左手がそのコードの根音を弾くだけでも簡易伴奏となるので、伴奏にも取り組んでもらいたい。それに慣れてくると意外に和音が弾けるようになる。下段のへ音記号の和音を弾いてみるとよい。①はCの和音（ドミソ）で基本形である。②はFの和音（ドファラ）だがこれは第2転回形（第5音を最低音にした形）、③はGの和音（シレファ）は第1転回形（第3音を最低音にした形）である。④も③と同じG7の第1転回形である。⁷⁾ このように転回形を使うのは和音進行上のためである。例えばドミソの次にファラドを弾くことは、跳躍してしまうので、できるだけ進行しやすい和音にするために転回形が使われる。（譜例：虫の声）

The image shows a musical score for '虫の声' (Insect Sound). It consists of a melody line in treble clef and an accompaniment line in bass clef. The melody is in 2/4 time and features a sequence of notes: C4, D4, E4, F4, G4, A4, B4, C5. The accompaniment consists of single notes: C3, F2, G2, C3, F2, G2. Above the melody, the chords C, F, G, C, F, G7 are indicated. Below the accompaniment, four chord diagrams are shown, labeled ①, ②, ③, and ④. Diagram ① is a C major triad (C-E-G). Diagram ② is an F major triad in second inversion (F-A-C). Diagram ③ is a G major triad in first inversion (G-B-D). Diagram ④ is a G7 chord in first inversion (G-B-D-F).

4. 楽譜の読み方

今までの音楽理論を応用して、楽譜を分析してみよう。楽譜にはどのように「音楽づくり」をしていくか読み取ることができる。その音の高さや、速さ、拍子、リズム、調などをしっかりと把握できて初めて音楽となる。益々進化していく世の中ではただ音符を「適当に」とか「聞き覚え」で教えていくことは教員としての音楽には成り立たない。「音楽は楽しめばよい」という感覚から、「より正確な音楽を伝えていこう」と考えてほしい。

まず、次の楽譜は「スキーの歌」で現在小学校5年生の共通教材で、文部省唱歌、林柳波作詞、橋本国彦作曲である。現在の教科書には「この歌は今から80年ほど前につくられた歌です。当時は今のようなスキー場などなかったので、スキーをかついで雪山をのぼり、自然のままの山の斜面をすべって楽しんでいました。この歌では、真新しい雪の上をスピードにのってすべりおる喜びが、おおらかに歌い上げられています。」⁸⁾と書かれている。この歌を学生は殆ど歌ったことがないことがわかり、共通教材を学ぶ上で特にいつも課題として加えている教材でもある。

作曲者の橋本国彦（1904年～1949年）は東京音楽学校（現在の東京芸術音楽大学）を卒業後、ウィーンへ留学、新ウィーン楽派の影響を受ける。山田耕筰の日本歌曲の創成期に続き、継承期時代の作曲家。代表作品は深尾須磨子詩による「斑猫」ほか「お菓子と娘」「薊の花」「富

士山見たら」「お六娘」「城ヶ島の雨」など。橋本歌曲はその時代の流れを素早く感じ取り、世界の音楽の流れの中に身を置いてそれらの新しい技法をいち早く自分の中に注入し、今でもその感覚の新しさは失われることはない。⁹⁾

次は下記の楽譜¹⁰⁾の読み方の説明していく。問いと答え形式で記すので、このような形で他の曲も考えて、読譜力をつけていくとよい。

スキーの歌

(部分二部合唱)

文 部 省 唱 歌
 はやし りゅう は 作 詞
 はし橋 もと くに 彦 作 曲

1. か が や く ひ の か げ は ゆ る の や ま
 2. と ぶ と お お ぞ ら は し る だ い ち
 3. や ま こ え お か こ え く だ る し ゃ め ん

- ① この音部記号名・・・ト音記号（ヴァイオリン記号・高音部記号）
- ② この曲は何調か・・・ト長調（#1個はト長調）
- ③ この曲の速さは・・・♩（4分音符）を1分間に120拍（目安としては時報の60拍の倍）
- ④ この曲の拍子は・・・♩を1拍として1小節に4拍ある拍子
- ⑤ この記号は・・・全休符（この小節全拍お休み）
- ⑥ この和音（レソ）のI・IV・Vのどれか・・・これはト長調のIの和音

- ⑦ この音部記号名・・・ヘ音記号（バス記号・低音部記号）
- ⑧ この音程は何度か・・・〈1点イ～2点ハ〉なので短3度
- ⑨ この音の音名は・・・1点ニ
- ⑩ この音程は何度か・・・〈と～ニ〉ひらがなやカタカナは音の高さを表しているので注意
- ⑪ この記号の読み方と意味・・・フォルテと読み、意味は強く
- ⑫ この記号の読み方と意味・・・クレシェンドと読み、意味はだんだん強く
- ⑬ この記号の読み方と意味・・・ブレスと読み、意味は息つき
- ⑭ この記号は・・・・・・・・・・2分休符（全休符と間違いやすいので注意）
- ⑮ この音符の名前は・・・・・・・・付点2分音符（4分音符を1拍とするとき3拍弾く）
- ⑯ この記号は・・・・・・・・・・8分休符（4分音符を1拍とするとき半拍休み）
- ⑰ この記号は・・・・・・・・・・4分休符（4分音符を1拍とするとき1拍休み）
- ⑱ この音符についている点の名称・・・スタッカートでその音を短く切る
- ⑲ この4つの下の音（J）を移動ド唱法で階名を書くと・・・この曲はト長調、トが主音（ド）
になり、ド・ミ・ソ・ミとなる
- ⑳ この3つの下の音（J）を固定ド唱法で階名を書くと・・・この曲はハ長調読みでよいので
レ・#ファ・ラ

このように楽譜を正確に読む習慣をつけると自然にどのような楽曲かを判断して歌ったり、弾いたりすることが可能となる。「音楽づくり」も難しいことではなくなる。

5. おわりに

音楽理論は楽譜を読むために必要な知識である。ただ歌うだけ、ただ弾くだけの世界では教員としての音楽は成り立たない。しかし、あまりに教員採用試験の分野が広すぎて、大学在学中の授業時間内では全部教えることは難しいと考え、少しでも学力の足しになればと学習方法を兼ねてこれを執筆をした。この「教員としての音楽」を読みながら、テキストとしている「初等音科音楽教育法 小学校教員養成課程用（音楽之友社）」と「音楽通論（教育芸術社）」を参考にしながら学んでほしい。筆者が教員になってからのかなり以前より音楽理論と実技が別々に考えられている傾向があることと、中学校や高校で、音楽理論をマスターさせる学校があると思えば、全然触れない学校があり、その差はかなりあることがわかっている。全然触れていない学校から来た学生が、小学校教員となるために進路が決まった途端、いきなり音楽理論と楽譜を見てピアノを弾かなければならない大変さはよく理解できる。しかし、小学校では先生は何でもできると信じている生徒が多いに違いないのだ。もし不完全なまま教員として出発してしまったなら、せめて生徒と共に音楽も復習の意味も兼ねて学んでいってほしいと考えている。また、ピアノなどの楽器に自信がある人ももう一度音楽理論を見直してほしい。どの教科も完璧とは云われなほどの幅広い知識が必要であるはずである。「こんなことを覚えなくてもいい」と考えた時に進歩は止まることを心にいつもおいてほしい。経験上、学んで無駄だということとはひとつもない。学ぶ姿勢がどんな時にもあれば、自分の能力に余裕ができることを

知っていてももらいたい。その学ぶ心が壁にぶつかったとき、扉を開いてくれる力を出してくれるに違いない。大学は自己教育力を高めることによってより知識を得ることができると思う。そしてまた、音楽は子どもの心を開く道具として役に立ってくれるのだ。

註

-
- 1) レオポルド・モーツアルト著 塚原哲夫訳 バイオリン奏法 全音楽譜出版社 2011年 参照
 - 2) 文部科学省「小学校学習指導要領解説 音楽編」教育芸術社 平成20年8月 P93, 101
 - 3) 石桁真礼生「楽典 理論と実習」昭和45年2月第15刷発行 音楽之友社 P13～16 参照
 - 4) 教芸音楽研究グループ編著 「音楽理論」教育芸術社 2009年 P86～参照
 - 5) 前掲3) P131～133
 - 6) 初等音楽教育研究会編「初等科音楽教育法[改訂版]」小学校教員養成課程用 音楽之友社 2011年2月 P51 参照
 - 7) 前掲4) P144 参照
 - 8) 教育芸術社 小学校の音楽 5 平成22年 P35
 - 9) 畑中良輔著 日本歌曲全集解説書 音楽之友社 1991年6月 P50～51
 - 10) 前掲6) P186